

新しい大阪へ

さらば維新政治

「大阪都」構想は否決されましたが、安倍首相と橋下市長のふたりに共通している「破壊願望」が大きな訴求力を持って、いることに変わりはありません。一方は「戦後レジームからの脱却」、他方は「大阪市廃止」。どちらも今ある制度を破壊することのもたらす爽快感・全能感を人々にもた

思想家、神戸女学院大名譽教授 内田樹さん □

らします。それが日本の現状に強い不満と閉塞（へいそく）感を感じている層にアピールした。

弱者に不寛容

もうひとつふたりに共通しているのは、弱者に対する不寛容です。生産性の低い人間がいるせいで、社会が効率的に機能していない。だから、社会福祉を切り捨て、教育や医療も削る。金でサー

ビスを買い取る市民だけが質の高い医療や教育を受けられるべきだ。他の人間が自分たちの払った税金に「ただ乗り」するとは許さない。そういう発想です。

アメリカにはサンデープリングスという市があります。自分たちが納めた税金を貧しい市民の福祉や医療や教育に使われることが「我慢ならぬ」という人たちが集ま

って、郡から独立しました。市は業務を民間委託して、効率よく運営されています。でも、サンデープリングス市が抜けたフルトン郡では税金が激減して、学校や病院や図書館が閉鎖され、地域の治安まで悪化しました。それは「自己責任」

「大阪都」構想で実際に受益する見込みのある「強者」が彼らをサポートする理由は私にも理解できません。でも、自分たちが

強者の総取り

その「強者の総取り」システムから受益できるはずもなく、むしろ生活が逼迫（ひっぱく）し、市民的自由が制約されること

「強者」が彼らをサポートする理由は私にも理解できません。でも、自分たちが

「強者」が彼らをサポートする理由は私にも理解できません。でも、自分たちが

「破壊願望」に託すな

その「強者の総取り」システムから受益できるはずもなく、むしろ生活が逼迫（ひっぱく）し、市民的自由が制約されること